

当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

十和田市 病院事業管理者
十和田市立中央病院

vol.16

丹野 弘晃 たんの ひろあき 先生

専門：外科 総合診療科

得意分野：消化器疾患 栄養管理 甲状腺疾患



—ご出身はどちらでしょうか？

宮城県仙台市生まれです。小中学校時代は転校生でした。小学校は3校、中学も3校変わりましたね。体を動かすことが好きで、中学高校の6年間は軟式庭球に打ち込みました。大学では、スピードスケート部に所属していました。

—大学も出身地である仙台の東北大学医学部とうかがいました。青森県に勤務されるきっかけなどを教えてください。

30歳台の頃、青森県立中央病院の外科に7年弱お世話になり、外科医の基礎を叩き込まれました。その後仙台市内の病院に20年弱勤務し、2012年4月から当院にお世話になっています。青森県での勤務を決意したのは、以前多数の手術を経験させていただき、外科医としてわずかな自信を植え付けてもらった、その恩返しが少しでもできればという思いからです。2020年には前事業管理者である松野正紀先生の命を受け、その業務を引き継がせていただきました。

—先生は外科を標榜されていますが、得意分野について教えてください。



メスを置いて既に10年以上経っていますので、外科医としては使えないでしょうね。現在は甲状腺疾患の外来と、在宅診療を担当しています。

—最近の研究や、実践されていることを教えてください。

病院事業管理者として、病院の運営については心配りしているつもりです。まだまだ不十分ですが、マネジメントの勉

強は続けております。市民の皆さんに安心して生活していただけるような医療を提供し続けたいと思います。また、診療情報の適切な管理と活用を通して医療介護の発展を目指す、診療情報管理学会の活動にも力を入れています。

——今年の秋、十和田市で開かれる「第49回診療情報管理学会学術大会」の大会長を務められますね。

はい。2023年9月14日（木）・15日（金）の2日間、十和田市民文化センターに於いて開催予定です。診療情報管理学会学術大会が青森県で開かれるのは初めてで、副学術大会長に青森県立中央病院院長の藤野安弘先生と八戸市立市民病院事業管理者の今明秀先生、また、青森県の6つの二次医療圏の全中核病院から大会実行委員をご推薦いただき、充実した学術大会となるよう、オール青森で準備を進めています。全国各地で活動している診療情報管理士の皆さんに十和田市に集まっていただき、日々取り組まれている成果を持ち寄り活発なディスカッションを繰り広げていただけることを願っています。

◎第49回診療情報管理学会学術大会ホームページ
<http://jhim49.umin.jp/>



——十和田市に住んで10年以上になるわけですが、住む前のイメージと現在と、十和田の印象は変わりましたか？

赴任前には、十和田湖、奥入瀬のすぐそばにあるという感覚でした。もっと県南の街かと思っていました。住み始めると、自然豊かな美しい街で、文化の香りが漂っていて…桜には感動しました。長く住んでみて、本当に住みやすいと感じています。

——特技はありますか。食べ物の好き嫌いはどうでしょう。

とくにありませんが、長編歌謡浪曲……いやありません。嫌いなものはまったくないですね。

——お忙しい日々を送っていらっしゃると思いますが、リフレッシュのための趣味や、お休みの日の過ごし方など教えてください。

山も含めたランニング、そしてその後の温泉ですね。これはセットです。十和田市内（主にみちのく温泉）はもちろんです。奥入瀬（市民の家）や小川原湖（玉勝温泉）周辺も走っています。山は八甲田大岳（酸ヶ湯温泉）、高田大岳（谷地温泉）櫛が峰（猿倉温泉）名久井岳、階上岳などに走りに行っていますね。休日は、早めに起きて、走って、温泉に入り、ノンアルコールビールを飲んでほっこりする。午後から雑用をこなす、というパターンが多いですね。



日本の滝百選にも選ばれている松見の滝（丹野先生撮影）

——休日でもアクティブに過ごすことで活力に繋げてらっしゃるんですね。足を運んだ中で特に気に入りの場所がありますか。

休日にはよく滝見ランにも出かけるのですが、おすすめのひとつ「松見の滝」をご紹介しますと思います。場所は奥入瀬溪流ホテル側から奥入瀬溪流を3km程走り黄瀬川との合流近くが入山口となります。入口には駐車スペースもあります。目的地までは往復約18km（私の走りで約3時間、歩くと約6時間）の行程になりますが、ゆっくり走り続けることができるので勾配はそれほどきつくありません。周りの景色を眺めながら、かつたくさんのマイナスイオンに満たされながら「松見の滝」をご堪能いただきたいですね。一見の価値はあると思いますよ。

——診療時に心掛けている事などありましたらお聞かせください。

患者さんとの目線の位置に留意しています。この目線というのは、患者さんの病気の状態、性格、生活環境等も考えてのことです。基本的には、同じ高さの目線で対応するのですが、指導が必要な場合や、やる気を引き出す必要がある場合などは、目線の位置を意識的に変えるようにしております。



——最後に市民の皆さんへメッセージをお願いいたします。

これからのキーワードの一つに、「共生社会」があります。年齢や障害の有無などにかかわらず、多様性を尊重し、安心して安全に暮らせる社会のことです。当院が、その共生社会の拠点としての場を提供したいと考えています。安心安全に、障がい者の方も含めて老若男女が集える場所として、病院ほど適している施設はないと確信しておりますので、その整備・アピールに努めたいと思います。ご期待ください。

所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本肝胆膵外科学会、日本大腸肛門病学会、日本乳癌学会、日本緩和医療学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本甲状腺学会、日本医療マネジメント学会、日本臨床栄養代謝学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本診療情報管理学会、日本外科感染症学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会

資格情報等：日本臨床栄養代謝学会 認定医・評議員、日本診療情報管理学会 評議員、日本外科学会 外科専門医・指導医、日本消化器外科学会 認定医・指導医、日本消化器病学会 専門医・指導医、日本肝臓学会 専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医、検診マンモグラフィ読影認定医、病院総合医、診療情報管理士、第1種放射線取扱主任者、医師臨床研修指導医養成講習会受講済、緩和ケア研修会修了